2024 年 12 月

気象と気象用語

松山地方気象台

【12 月の気象】

12 月は「厳寒」「寒気」など冬の寒さを表す季語が多くあり寒くなってきます。テレビなどで「冬型の気圧配置が強まり、季節風が強くなっています」と聞かれることがあります。「冬型の気圧配置」とは、大陸に高気圧があって日本の東海上から千島方面に発達した低気圧がある気圧配置を言います。また、気圧が日本付近から見て西が高く東が低い気圧配置となることから「西高東低の気圧配置」とも呼ばれています。図 1 は、冬型の気圧配置の天気図です。一般的に、このような時には、全国的に北西寄りの季節風が強く吹き、日本海側では大雪となり、太平洋側では乾燥した晴れの天気となります。愛媛県では、季節風が関門海峡を吹き抜けてくるため、北西の風がさらに強くなり、寒気が強い場合には海上で発生した雪雲が県内に流れ込むことがあります。

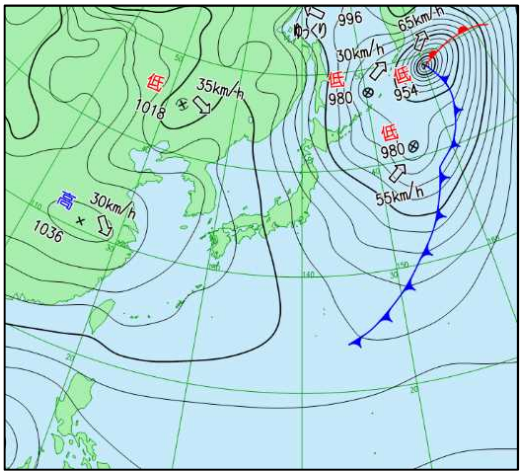

図 1 地上天気図（2021 年 12 月 18 日 9 時）

【気象用語】「冬型の気圧配置による大雪」について

冬型気圧配置での大雪というと日本海側を思い浮かべますが、愛媛県でも冬型気圧配置（以下、冬型）で強い寒気が入ってきた場合、警報級の大雪となることがあります。

冬型で大雪となるかを考えるとき、大まかに次のことを気象台では検討します。

・寒気の強さ

目安として、高度 5500m 付近で - 30℃、高度 3000m 付近で - 18℃、高度 1500m 付近で - 9℃程度の寒気が入ってくると大雪となる可能性が大きくなります。

・湿潤層の高さ

湿潤層は地上からどこの高さまで湿っているかを考えます。湿潤層が高いほど雪雲が発達します。概ね、高度 3000m 付近まで湿っていると大雪となく可能性が大きくなります。

・風向および継続時間

愛媛県に関門海峡から流れてくる雪雲がどこに入るかは、概ね風向により決まります。北西から西北西の風向では中予から南予北部、北西から北北西では南予南部に雪雲が入りやすくなります。その風向がどのくらい続くかによって雪の降る量が変わります。1 日程度同じ風向が続くようだと、警報級の大雪となる可能性が大きくなります。

図 2 は 2022 年 12 月に久万高原町を中心に大雪となった時の天気図です。等圧線は九州北部付近では北西から南東方向に傾き、地上付近の風は西北西となり中予や南予山地を中心に大雪となりました。

図３は、宇和島で観測史上１位の積雪（38cm）を観測した 1931 年 1 月 10 日の天気図です。等圧線は南北に立っており、地上付近の風向は北北西となっています。

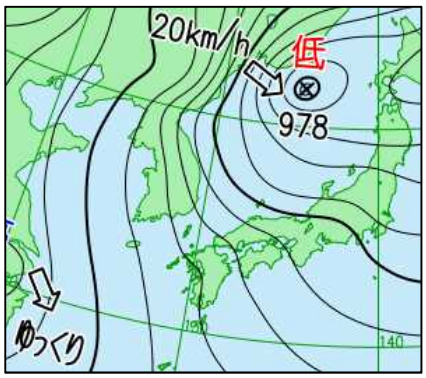

図 2　地上天気図（2022 年 12 月 23 日 9 時）

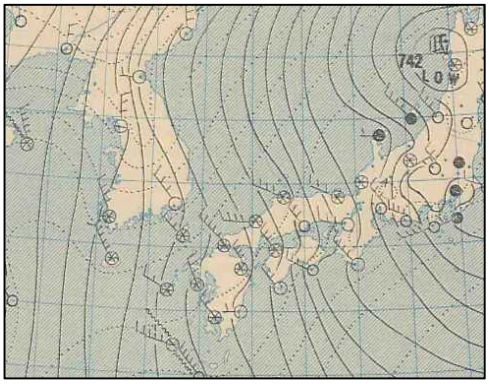

図 3　地上天気図（1931 年 1 月 10 日 6 時）